

サガラメ・カジメ種苗培養研究

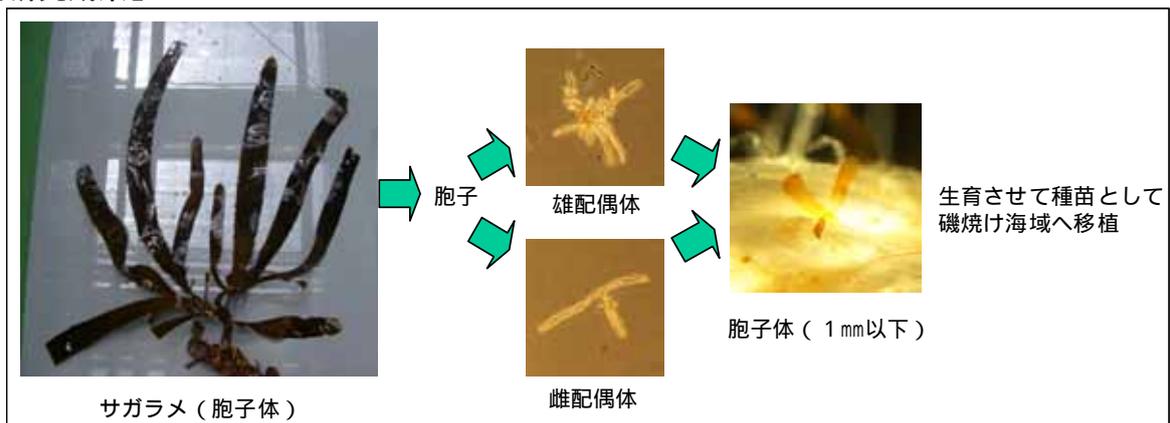
(予算区分 国補助・県単独 研究期間 平成16～20年度)

担当：利用普及部深層水研究室

【研究の背景とねらい】

- ・サガラメ・カジメで構成される藻場・海中林は、海藻自体が漁獲の対象になるだけでなく、魚類や甲殻類などの産卵場や保育場、アワビやサザエなどの餌になるなど、沿岸域で重要な役割を担っています。
- ・現在、本県沿岸ではこれらの藻場・海中林がなくなってしまう「磯焼け」が発生しています。
- ・本研究では、磯焼けから藻場・海中林を回復するために、効率良く、安定的にサガラメ、カジメの種苗を供給する技術を開発することを目的としています。種苗とは磯焼け海域や養殖を行う際の”苗”になります。
- ・種苗となる孢子体を作成するため、光の強さや水温、海水中の栄養塩量による生長速度の違いを調べます。

【研究成果】



- ・サガラメおよびカジメ孢子体及び配偶体共に深層水中で、表層水よりも生長が早く、また、深層水中で生育させるための光・水温条件を明らかにしました。
- ・配偶体を浮遊状態で発芽させる、新たな種苗生産方法を開発し特許出願しました。
- ・深層水を使い、磯焼け海域に移植するサガラメ・カジメ種苗を試験的に生産しました。
- ・孢子を採取する際に必要な母藻の成熟条件を明らかにしました。
- ・榛南海域で試験的にサガラメ海面養殖を行いました。

【研究成果の普及方法】

- ・種苗生産法が確立されることにより、磯焼け海域への”苗”の安定した供給が可能となります。現時点では試験的な試みがなされていますが、多量の”苗”を生産できれば、山に植林するように海中に移植することが可能となります。
- ・サガラメは食用としての需要も多いため、安定した種苗生産が可能になれば、サガラメ養殖を行うことも可能となります。

(作成 平成21年3月)